

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：しらとり台保育園青葉台	種別：児童分野 認可保育所	
代表者氏名：園長 佐野健一	定員（利用人数）： 56（55） 名	
所在地：横浜市青葉区藤が丘2-20-10		
TEL：045-978-3318	ホームページ：しらとり台保育園.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2016年6月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人しらとり台保育園		
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員 6名	
専門職員	保育士：14名	栄養士：1名
	調理師：1名	
施設・設備の概要	（居室数）：6室	（設備等）：保育室、事務室・医務室、調理室、調乳室、沐浴室など

③理念・基本方針

（保育理念）

児童福祉法39条に基づき、保育に欠ける乳幼児の保育を行い、その心身の健全な育成を図ります。一人ひとり個性を持った園児の集団生活を通じて、明るく豊かな心と健やかな体をはぐくみ、「知・徳・体」のバランスの取れた保育を行います。

（基本方針）

- ・自分で考え行動できる子ども
- ・明るく素直で思いやりのある優しい子ども

この2つを保育目標とし、豊かな人間性を持った子どもを育成する。

④施設・事業所の特徴的な取組

駅から近く、近隣には大小様々な公園があり、自然豊かな四季を感じられる環境にあります。

入園受入れ年齢は産休明けからとなり、2歳児クラスより園指定の制服・体操着・通園かばん等を使用しています。

給食、3時のおやつ、夕食はなるべく無添加を心掛け、旬の食材を取り入れながら手作りで提供し、食育活動やクッキング保育も積極的に行っています。また、年少クラスから週一回体育・知育などのカリキュラムを行い、年長児クラスになると専任講師による音楽や造形の指導もあります。

2階の広い保育室は、雨の日の室内遊びやカリキュラムを行うのに十分なスペースがあり、活動によって仕切れる可動扉も設置しています。一年間を通して季節の行事や運動会・発表会などの大きな行事を経験して、子どもたちの豊かな心と体の育成に繋がっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月5日（契約日） ～ 2023年2月7日（評価結果確定日）
--------	--

受審回数（前回の受審時期）	1 回（2017年度）
---------------	-------------

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特徴】

◆職員は子どもの一人ひとりの個性や性格を理解し、子どもに寄り添った保育を実践しています

職員はクラス会議や職員会議の中で子どもの様子を話し合い、情報を共有して、職員全員が一人ひとりの状況を把握出来るように努めています。子どものしぐさや表情などから欲求や思いを受け止め、気持ちに寄り添い、時には代弁し、応答的な関わりや支援を行うことで、子どもが安心感と信頼感をもって活動できる環境を整えています。日常の保育の中では、肯定的な言葉を使い、子どもに分かり易い言葉で穏やかに関わるようにしています。子どもたちはこうした保育士の温かい保育によって、人と関わる事の心地良さを経験し、人間関係や生活体験を広げていく事が出来ています。探索活動や表現活動で困った時や不安な時でも保育士が寄り添い、承認することによってのびのびと自分たちのできることを楽しんでいます。

◆園内研修を充実させるなど職員の育成に力を注いでいます

園は人材育成に力を注いでいて、初任保育士から中堅、主任クラスまで階層別に職員のあるべき姿を明確にして職員に提示しています。職員に求められる能力としてコミュニケーション能力、保育専門能力、保育改善能力、課題発見能力など10の能力を掲げて自己啓発を求めています。さらに職位・職階別に求められる能力・スキルが異なっていて、それに向かってどのように自分自身を高めていくかの道筋を示しています。スキルアップシートで年度の目標を設定し自己啓発に取り組んでいます。園内研修は毎月実施しており、これに加えて園外研修も参加するように奨励しています。

◆地域との接触を深める活動が展開され、子どもたちの成長の糧となっています

園の倫理綱領に「保護者や地域の人々が子育てに喜びを感じあえる社会を作っていく」と述べて地域との交流や活動を重視しています。子どもたちは園周辺を掃除したり雪かきをして近隣と友好的な関係を持てるようにしたり、年長児は地域のふるさと祭りに参加したり、地域の神社に七五三詣で行ったり、近隣他園との交流保育や小学校訪問を行っています。中高齢者施設訪問はコロナ禍により中断していますが、子どもの踊りの発表の動画を施設利用者に見てもらったりしています。こうした社会的活動は子供のための成長の糧にもなり、子ども自身が利益を得ることになります。

【今後期待される点】

◆中期計画と単年度計画の整合性を図り、数値目標や具体的な成果等を設定することが期待されます

中期計画としておおむね5年をめどにして2つの目標が設定されていて、さらにそれぞれに具体的な重点課題が設定されています。ただし、どのような方法で具体的に取り組んでいくかは明確ではなく、そのために、その計画の実施状況を評価できるようにはなっていません。単年度の事業計画も具体的な成果を把握する指標を設定し、中期計画を反映して策定していくことが期待されます。また、職員アンケートなどから得られた園の問題点や課題を整理し改善点として次年度の計画に盛り込むこともPDCAの考え方から必要と考えられます。職員の意見をより積極的に取り入れながら、園の運営に関わっていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回2回目の福祉サービス第三者評価を受審し、当法人の福祉サービスの質を専門的かつ客観的な立場から評価して頂きました。

評価項目について、職員はグループごとに話し合いを行い、意見をすり合わせ、それを全体で検討した結果を自己評価に繋げました。職員全員で思いを共有でき、新たな気づきが得られた事は自園にとって、とても良い機会となりました。利用者のニーズに応えながら、高い評価を得た部分はより一層力を入れ、それと同時に改善すべき課題については頂いたアドバイスを活かし、更なる福祉サービスの質の向上に向けて、進めていきたいと思えます。

今後も安心安全でより良い保育園となるよう、職員一同取り組んでいきたいと思えます。

最後に受審に際し、ご尽力頂いた評価機関の皆様、利用者調査にご協力頂いた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり